

日本英文学会東北支部ニュースレター

Newsletter

The Tohoku Branch of the English Literary Society of Japan

2025 年 6 月号 (June 2025)

発行 日本英文学会東北支部 〒990-8560 山形市小白川町一丁目 4-12 山形大学地域教育文化学部 三枝和彦研究室内
TEL: 023-628-4827 E-mail: tohoku@elsj.org URL: <https://elsj.org/tohoku/>

支部長挨拶

日本英文学会東北支部長 大貫隆史

東北大学の大貫と申します。本年度より2年間、どうぞよろしくお願いいたします。もともと自分の専門は文化研究でして、また、一見しては関連のなさそうな文学的、文化的作品の共通性と特異性を論じて（いた書き手を論じて）ゆく、という作業もしてきたことに事後的にですが思い至り、そうなりますと、比較文学的なアプローチもとってきたことになります。こういう人間が、支部長の任にあたりますことに、誇張なしに不安を覚えてしまったのですが、東北支部は、英語学、言語学、英語教育、英語文学など、ごく多様な領域をご専門とする会員の皆様より構成されていて、文化研究や比較文学も、そうした豊かな多様性を構成する重要な一部ではないかと思ひ至り、今回の任をどうにか全うできるかもしれないと思うようになりました。

いま、「豊かな」という形容を用いたのですが、自分の受けてきた教育、拙いながらも自分の教育実践を顧みますと、英語と文学の「豊かさ」としか表現しようのないものを体感し続けてきたことにも思い至ります。資格試験のための英語を熱心に教えたときも、いわゆる名作を学生たちと熱心に読んだときも、個人を越えて連続しているものの「豊かさ」に（個人として）感じ入っていたことが少なくなかったことを、振り返って思います。そういう経験を拙いながらも積んできた限りにおいても、今回の任を果たしうる可能性を感じておりまして、皆様よりのご指導、ご助言を心よりお願いする次第です。

また、富士航先生、高田英和先生、川崎和基先生、佐藤元樹先生による、前年度までのご尽力に、この場を借りて、深く御礼を申し上げます。勤務先での業務の複雑化にどこでもどこまでも歯止めがかかり難いなか、間隙を縫うように時間を捻出してくださったことに本当にお礼の言葉もございません。

本年度より、富士航副支部長、三枝和彦事務局長、齋藤章吾事務局長補佐、佐藤元樹事務局員にお力添えを頂戴することになります。富士先生、佐藤先生には継続してお仕事となりますこと、誠に心苦しく感じております。あわせて、支部ウェブサイトへのアクセス困難現象が解消されたことをご報告申し上げますと同時に、佐藤先生の献身的なお仕事にあたためて感謝いたします。

誰の目にもあきらかなほどに、激動の時代に入りつつあります。「英文学会」はながらく「斜陽産業」的なものと見なされてきた感がありますが、私見とはいえ、そうした諸条件はどうやら大きく変化しつつあるようにも見受けられます。英語、文学、英語教育、言語についての、どこでもどの集団にもあてはまる、研究や教育のための、完全に「普遍的」なコミュニケーションのモデルは、どうやら存在しないことが了解されつつあり、ある程度の一般性や共通性（あるいは言語をめぐる人間のフィジカルな仕組みにおける「普遍的」なもの）はもちろんありつつも、おのおのの場所で実効性をもつ、個別具体的なコミュニケーションの「かたち」が、さらに希求されるようになってきたように思います。『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』が、いわば国策として推奨している「日常的に英語を使用する人とは異なる英語」こそが、コミュニケーションの扉のようなものを開いてくれる状況を、わたし自身も何度も

経験していますし、(英語母語話者の方もその内に含む) 会員のみなさまも同様と拝察いたします。英語というヨーロッパの周縁をひとつのはじまりとして育まれてきたものを、東北地域という文化的で社会的な豊かさを享受しうる場所で、さらに豊かに研究、教育し続けられますよう、会員のみなさまからのご協力をお願いする次第です。仙台で開催される本年度の支部大会へのご参加、『東北英文学研究』へのご投稿を、すべての会員のみなさまにお願いして、本年度の挨拶と代えさせていただきます。

入退会手続きおよび会費納入について

全ての東北支部会員の入退会手続きおよび会費納入は、支部事務局ではなく本部事務局を通じて行われています。日本英文学会 HP (<https://www.elsj.org>) に入退会に関する情報がございますので、ご覧下さい。年会費は一般会員 8,000 円(本部会費 7,000 円+支部会費 1,000 円)、学生会員 5,000 円(本部会費 4,000 円+支部会費 1,000 円)です。詳しくは本部事務局 (ejimu2@elsj.org) へ、メールもしくは本部 HP の「ご連絡・お問い合わせフォーム」にてお問い合わせください。

東北支部第 80 回大会の開催について

2025 年 4 月 12 日(土)に第 1 回理事会および大会準備委員会が Zoom を用いて開かれました。審議の結果、第 80 回大会は以下の日程で行われる予定です。

日 時 : 2025 年 11 月 29 日(土)

場 所 : 東北大学 川内南キャンパス(対面開催)

*懇親会を仙台市内で開催予定です。場所や申込方法などについては、メーリングリスト等でご案内いたします。

研究発表応募について

第 80 回大会における研究発表応募は、6 月 6 日(金)を締め切りとして行われました。応募して下さいの会員の皆さま、ありがとうございました。現在、応募書類を審査中です。

シンポジウムについて

第 80 回大会で行われる予定のシンポジウムは、現在、以下のように準備が進められています。

◆文学部門

テーマ : 19 世紀~20 世紀のユートピア小説(仮題)

講 師 : 泉 順子(東北学院大学教授)

川田 潤(福島大学教授)

小澤 央(法政大学准教授)

玉川明日美(フェリス学院大学非常勤講師)

◆英語学英語教育部門

テーマ・司会・講師ともに調整中

大会準備委員について

今年度の大会準備委員は以下の会員が務めます。

文学部門：

泉 順子（東北学院大学）
山口晋平（宮城学院女子大学）
土屋陽子（弘前大学）

英語学英語教育部門：

戸塚 将（宮城教育大学）
柳澤國雄（旭川医科大学）

開催校委員：

飯味千秋（東北大学）
島 越郎（東北大学）
中村太一（東北大学）

編集委員について

今年度の編集委員は以下の会員が務めます。

文学部門：

菊池秋夫（八戸工業高等専門学校）
川田 潤（福島大学）
堀 智弘（弘前大学）

英語学英語教育部門：

五十嵐啓太（長岡技術科学大学）
高橋英也（岩手県立大学）
鈴木舞彩（北見工業大学）

事務局の体制について

三枝和彦（山形大学）が事務局長を、齋藤章吾（弘前大学）が事務局長補佐を、佐藤元樹（福島大学）が事務局員を務めております。支部大会開催関係事務と会計を三枝が、出版関係事務を齋藤が、HP 管理を佐藤が担当しております。事務局へのご連絡は E メール（tohoku@elsj.org）をお使いください。

理事会報告

2025 年 4 月 12 日（土）に開催された第 1 回理事会の議事録を次頁に掲載いたします。

日本英文学会東北支部 2025 年度 第 1 回理事会 議 事 録

日 時 2025 年 4 月 12 日（土） 14：00～14：30
場 所 Zoom によるオンライン会議

出 席 者（順不同・敬称略）

支 部 長 大貫隆史（東北大学）
副 支 部 長 福士 航（東北学院大学）
理 事 井出達郎（東北学院大学） 川田 潤（福島大学） 木村宣美（弘前大学）
酒井祐輔（宮城学院女子大学） 佐々木和貴（秋田大学）
境野直樹（岩手大学） 島 越郎（東北大学） 高田英和（福島大学）
事 務 局 三枝和彦（事務局長） 齋藤章吾（事務局長補佐）

議 題

会議に先立って、先生方から自己紹介を兼ねてご挨拶をいただいた。

報告事項

（1）本部理事会報告

本部理事である福士副支部長より、2025年3月開催の理事・評議員会の報告があり、支部事業予算の策定方針及び、東北支部の2025年度予算が申請額よりも減額になり、支部収支が赤字になるが、それに関する本部の説明は理解できることであるため、異議申し立てはしなかった旨説明があった（2025年度予算については、議事（5）で実際に確認した）。また、4月より運用が開始されたハラスメント相談窓口について説明があった。

議事

（1）2024年度事業報告（資料1）

資料1に基づき2024年度事業報告があり、承認された。

例年の事業に加え、日本英文学会第96回全国大会が東北大学で開催されたことが挙げられ、開催校及び開催支部委員の先生方のご尽力に対して感謝の言葉が述べられた。

（2）2024年度決算報告（資料2）

資料2（収支計算書）に基づき2024年度決算報告があり、承認された。

（3）2024年度監査報告（資料2）

資料2（監査済み収支計算書）に基づき監査報告があり、承認された。

（4）2025年度事業計画について（資料3）

資料3に基づき2025年度事業計画について説明があり、承認された。

東北支部HP上に掲載されているProceedingsについて、2025年度開催の第80回大会Proceedingsからは、発行日を3月31日として明記することが確認された。

（5）2025年度予算について（資料4）

資料4及び本部理事会報告で言及された収支予算書に基づき2025年度予算について説明があり、承認された。

予算の策定について、2025年度から前年度予算ではなく前年度決算に基づき策定するという方針に変更されたため、支出がなかったり少額だったりする費目への予算が削られ、支部支援金が大幅な減額となることが確認された。

福士副支部長より、支部支援金が減額されて収支予算は赤字となっているが、支出のあった費目には、その額に応じて次年度に予算が付けられると考えられることから、事業及び経費を削減するなどの措置をとる必要はない旨補足があった。

（6）その他

大貫支部長より、ハラスメント防止の体制づくりにご協力いただいた先生方に対する感謝が述べられた。